

# I 報告事項

## 1. 『シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)』の近況

### 1) 会員数

ホームページによると、平成 28 年 2 月 23 日(火)現在の CNCP の会員の状況は、法人会員 20、個人会員 22、賛助会員 32 である。ちなみに昨年 9 月 7 日現在は、それぞれ 22、21、32 であった。法人会員が 2 団体減り、個人会員が 1 会員増えている。

### 2) 活動の近況

運営会議資料によると CNCP が現在精力的に活動しているのは、つぎの 2 つのテーマである。

#### ①「マッチングサイト&「Q&A」サイト」の構築

マッチングサイトとはインターネット上で業務委託者と業務受託者のマッチングを支援する仕組みの総称である。すでにこの仕組みを利用したビジネスモデルは、クラウドソーシング事業として我が国では IT 関連の仕事やデザインを中心に、この 5 年程度の期間で急成長を遂げている。

クラウドソーシングとは不特定多数(CROWD)と業務委託(SOURCING)するという意味でネーミングされた。この不特定多数を対象とした在宅・テレワーカーというスタイルは、今後さらに普及するものと言われている。

本事業は、建設分野において仕事を依頼した企業が建設系 NPO に発注できるようにする仕組みをマッチングサイトとして構築するものである。

本システムが稼働しサービス開始されると、CNCP として下記の役割が期待される。

- ① 専門技術者の経験と技術を活かす場の提供
- ② 交流・自己アピールの場の提供
- ③ 地域課題解決のデータベース蓄積の場
- ④ 賛助会員、企業および法人正会員(NPO)を相互により強く結びつける相互扶助の場

#### ② 事業推進専従組織の設置

事業推進部門は、これまでに 6 つの CNCP 事業を提案してきた。しかし一向に会員の CNCP 事業への参画意識が見られず、アンケート調査ですらその回答率は極めて低い状況が続いている。また会員拡大の兆候も見られない。会員の参画を促す革新的な仕組みが必要である。そしてその仕組みには会員が参画する上での「大義と実利」が不可欠であり、CCT 研究所の企画が提案された。

##### ● CCT 研究所とはシビル・コミュニティ・シンクタンク研究所(CCT)の創設提案

地方創生など地域には独自の発想や行動力が求められる局面が増えている。地域の諸問題に取り組むセクターとして NPO に寄せられる期待は大きなものがある。その期待に応えるためにはボタナリ的な活動では限界があり、地域社会での役割を果たすためには活動分野での高い専門性や政策立案・提言能力が求められる。日本ではまだ営利企業型以外のシンクタンクの実績は乏しい。とくにシビル分野全体に特化した地域の諸問題に取り組む専門のシンクタンクはない。シンクタンクとしては高度な情報収集・分析力、立案能力、情報発信力を持つ必要がある。そのためには CNCP に所属する法人正会員および個人正会員が有するシビル分野のさまざまな専門家とそのネットワークが不可欠の条件となる。地域のコミュニティに依拠した NPO 型のシンクタンクはコミュニティシンクタンク(CT)と称されているところからシビル分野に特化した NPO 型のシンクタンクをシビル・コミュニティシンクタンク(CCT)と称することとする。

注・・・第 23 回定例懇談会にて報告